



# 光受寺通信

R.4年7月1日 発行  
発行元 光受寺  
<https://koujyuji.com/>

ウクライナでの戦争が始まって以来、物価があれもこれもと値上がりをしている。中でも食品関係は特に心配されるもののひとつである。国内自給率の極めて低い日本においては、はたしてこの先の節約だけで済まされる問題なのだろうかと思われるのである。

カロリーベースの試算(令和2年度)では国内での自給率は37パーセント程だとか、あとは輸入に頼っているとのことである。ちなみに1946年戦後の日本においては自給率が88パーセントだったというが、なぜこんなにも落ち込んでしまったのだろうか。

難しいことは分からないのだが、一つには高学歴社会に伴い、次世代を担う若者の農業離れが起因しているようにも思われる。「農業では生活ができない」「農家に嫁が来ない」などなど、農業は若者にとって、いつしか魅力のない職業の代表になってしまったからではないだろうか。

しかし今、日本において「食料確保」の問題は、気候変動の問題や、社会の情勢の不安定化から先の見えない危機的状況にあると言っても過言ではない。この現実を重く受け止め、改めて農業を見直し、農業の活性化と、魅力ある農業の実現を目指していかなければ、日本の将来は見えてこないように思えてくる。いくらお金を出しても手に入らない時代の到来も、もうそこまで来ているように思えてしかたがないのだ。

## 少子高齢化に思う

樹林

日本において近未来の社会問題と言えば、まちがいない「少子高齢化」の問題です。女性の社会進出で経済的自立が高まり、その分、結婚への意欲が薄れたこと、また子供の教育費が高み、大学まで2千万円が必要とされることから、少なく産んで立派に育てる傾向が強くなつたことなど、少子化の原因は複雑多様化しています。

高齢化の問題も急速に進展しており、令和4年度現在では8万6510人とされており、この数年のうちには100歳以上の人口が10万人を超える勢いで進んでいます。こうなりますと、高齢者といえども「健康寿命」の名のもとに気力・体力に依りて進んで働く意欲が求められる時代になると言われます。現在の高齢者の定義は65歳以上になっていますが、高齢化社会においては少なくとも70歳以上にすべきであります。いったん定年になった人でも、体力・気力が許せば再就職を認めるようにすべきです。

私も現在87歳ですが、少なくとも90代前半までは本職・畑仕事を続ける予定であります。大きな時代の変遷を自覚して気分を一新したいものです。

今、こんなじゆんぐでいます。 — 同朋会 —

「ロナの関係で、不規則な開催となっている同朋会。それでも今年でおよそ20年が経ちます。参加者も10名前後で推移しており、大変ありがたいことだと思っております。正信偈から七高僧として現在和讃について学んでいます。皆さんよく存じの「弥陀成仏」のかたは「ですが、今月は「光雲無碍如虚空」難思議を帰命せよ」までです。参加者の皆さんも「高齢になられ、夜の開催から昼への変更を考えています。(改め)ご連絡いたします。」

この会は、光受寺教化活動の要として、御同朋、御同行として共に学び歩み続けたい活動です。ぜひおしよりの方にご参加いただけたいと願っています。



今年もきれいに咲きました。

品種改良が進み、名前もユニーク。

- 右より
- ・バレリーナ
- ・千代女
- ・ダンスパーティー
- ・方華鏡



# 宗祖親鸞聖人八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要

令和五年三月二十五日(土) 「日帰りの案」ができました。

参加募集人員 九十名(十一組) 三十人乗りバス3台の予定。

参加費用概算 八千五百円(昼食代含む)

墨俣発(7時40分)・瑞穂市役所発(7時35分)・佐波発(7時30分)の三台。

本山法要 13時20分～15時(勤行・法話等)

帰着 18時前に予定

※当日はワクチン接種完了証明(「PCR」写真可)または陰性証明書必要。

現在までにお訪ねが2件ありました。お早めに(住職まで)

暁天講座のご案内 七月三十一日 6時半より

場所 岐阜市日置江1-10番地 善く寺

講師 二島多門師 「慶讃法要を迎えるにあたって」

参加費 300円 住職まで

## 今月の掲示板

### 回向えいご

願以此功德

平等施一切

同發菩提心

往生安樂國

わたしたちが、お経や正信偈を読んだ後、最後には「回向」を唱えます。  
誰しも最後のこの句は暗記で唱えるほどによく口にしてはいますが、その意味も理解しておきましょう。

現代語訳…お東門徒法事勤行集より

願うことなら阿弥陀様から頂いたこの功德をもつて、

平等にすべての人々にそれを施して、

みんな一緒に同じように菩提心を発して

阿弥陀さまのいらっしやる安樂國に往生いたしましう。

と、いっような意味になります。

### 新コーナー

十二回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

—問い続ける歩みをとまじり—

4回目



## こころの散歩

日本人は山や森に神を感じると言われてきました。砂漠と違って四季折々の風情や豊かな恵みに、敬虔な感謝の念を抱いてきました。これは遠く縄文時代に期限を求めることができると思います。狩猟採集の生活にとって自然の恵みは、何よりも有り難く頼りになるものでした。

日本の基層文化は縄文にあると言われるのですが、目にする樹木にも深い森林にも、神の御在、神の働きを感じてきました。日本の神社が深い森に囲まれているのもうなずけます。

山折哲雄先生の記述によると、イスラエルの上空は、果てしない荒涼とした砂漠が広がるばかりですが、日本の上空に差しかかると、がぜん緑一色の広大な森の広がりが見え入り、心から救われた思いになると述べられています。

日本人は長い間、豊かな自然に囲まれて生きながらえてきたことを思いますと、森への限らない親しみと畏敬から深い信仰が育まれたものと思われまます。



光受寺御遠忌法要

### 【連絡】

今月の光受寺喫茶(毎週金曜午後一時半より)、  
同朋会(第二土曜午後六時半より)(八月はお休み)